

## 主役は俺だー 2022年秋③

### ■鈴木 諒 (すずき・りょう) 北星学園大 OL/LB 4年

6月19日の春季オープン戦、札幌学院大と合同チームを組んだ北星学園大は東京農業大と対戦した。第1Q、東京農業大の最初の攻撃シリーズで、合同チーム守備にいきなりビッグプレーが飛び出した。第4ダウンで東京農業大QBがファンブルし、ボールを拾ったLB鈴木がエンドゾーンまで走って54ヤードの先制リターンTD。「同僚LBがサックして、こぼれたボールを拾っただけ」と照れるが、今季、15年ぶりに1部に復帰する東京農業大の出鼻をくじく強烈パンチだった。

釧路江南高では野球部の外野手。北北海道大会で1勝したが、甲子園には届かなかった。大学でも野球を続けようと思ったが、アメフト部の先輩に声をかけられた。部の雰囲気の良いと、コンタクトスポーツへの興味もあって入部を決めた。「一人一人がチームの大事な歯車。おもしろくて難しいところが魅力」とアメフトにはまった。LBは

1年生から。「ボールが奪えて、当たりもある」と先輩から薦められたポジションだが、「一番タックルできる」と今はすっかりとりこになった。

初タックルは1年生の北海学園大戦。キックラッシュの一員だったが、北海学園大の3年生キャリアを「完璧に倒した」とうれしそうに思い出す。当たりの強さを買われて、1年生の北海道大戦ではインサイドのランプレーでRBを務めたこともある。「LBは、自分の判断を信じる。ブロックをかわす、ギャップに入る、パスカバーに下がる、迷わずプレーすること」が信条。オープン戦の釧路公立大戦ではインターセプトも決めた。

主将として臨む今季。5人の新入部員を迎えたが、総勢16人の少数精鋭。3年ぶりの6校総当たりを前に「まずは1部残留を目指す。自分が4年間で培ってきたLBの技術も後輩に伝えたい」と決意する。「当たりの強さは自信がある。ブロkkerとボールキャリアを力とスピードでつぶしたい。鈴木がいるから中を抜けないーと言われるプレーをしたい」と意気込んだ。



〈プロフィール〉

2000年5月14日、釧路市生まれ。経済学部経済学科。釧路江南高出身。168センチ、91キロ。筋トレでは部内でダントツの重量を持ち上げ、「4年生だから当然です」と余裕たっぷり。